

常石すくすくハウス 自己評価について

認定こども園法により、教育及び保育並びに子育て支援事業の状況その他の運営の状況について自己評価を行いその結果の公表が義務として示されている。こうした動きのもと、保育過程に取り組む姿勢や体制が確かなものとして求められる、保育教諭一人一人の専門性を向上させ、園内外の研修を充実しキャリアアップしていく必要がある。

2023年度は、【魅力ある保育士・保育教諭になるための「自己評価」～魅力のある教育・保育施設づくりのために～】発行(一社)広島県保育連盟連合会 を活用し、自己評価を行いその結果を情報公開いたします。

1.自己評価時期 2023年度 第1回目 8月

※今後の予定・・・第2回目 11月、第3回目 1月

2.評価基準	5 理想的な状態、達成出来ている状態	91%以上
	4 達成間近、取り組み等を頑張っている状態	80~90%
	3 通常普通に行われている状態	60~79%
	2 頑張って取り組まなければならない状態	40~59%
	1 ほとんど達成できていない状態	39%以下

3.自己評価 2023 年度 第 1 回目 【第 1 部】自らの資質・能力について評価

評価分類項目…1 自尊心 自己肯定感・2 忍耐力・3 首尾一貫性・4 自制心

5 自己訓練・6 気概・7 信頼・8 協調性 協同性

9 共感性 調和性・10 未来を志向する力・11 探求心

12 充実感・13 認知力 思考力 判断力・14 心の推測力

15 自立心 主体性・16 感性・17 主体的で深い学び

計 17 項目

4.自己評価対象 常石すくすくハウス職員

5.評価結果 今回の評価項目は、一人ひとりの資質・能力を評価する内容であった。

中でも、去年 90%近くの高水準であった【9 共感性 調和性】の項目が、さらに 98%という結果となり、10%近く数値が伸びた。これは、職員間のチームワークの良さやお互いを高め合う雰囲気があることが伺える結果であり、本園の良さ、働きやすさ、やりがいにもつながる結果である。

また、【7 信頼】【8 協調性 協同性】【12 充実感】【14 心の推測力】の 4 項目は評価が高く 80%以上となった。この結果から、リーダーであるなしを問わず、すべてのさまざまな働き方の職員が本園の中で、毎日、やりがいを持って、気持ちをわかり合いながら、対話しながら、明日の保育がよりよくなるために工夫しながら働いている姿や気持ちが伺える。

また、【1 自尊心・自己肯定感】【2 忍耐力】【3 首尾一貫性】【4 自制心】【5 自己訓練】【10 未来を志向する力】【11 探求心】の7項目もすべて70%以上の水準で、これらすべて去年より評価が高くなっている。

特に、【1 自尊心・自己肯定感】【5 自己訓練】の2項目は75%以上と高水準であり、さまざまな職種や役割が存在する本園の職員の平均値がこのような数値として評価されることは、大変喜ばしいことである。赤ちゃん学びの会や適切保育、危機管理などの園内研修、美作短期大学のカルマー良子先生との共同研究などを通して、どのような職種の職員にも学ぶ機会を与え、自信の持てる環境づくりに努めていることが、この結果の伸びにつながったと予想される。本園は、どの職員も一人でも欠けてはなりたない仕組みになっている。どの職員も大切な財産である。そのことを常にどの職員にも伝え続け、学びの機会を与え、一人ひとりを大切にしていることが施設長の責務であると感じている。

そのほかの項目も65%以上であり、去年は60%~64%の数値の項目が今年、それ以上となっている。どの項目も数値が下がることなく上昇していることが見受けられる。あえて数値が低かったとすれば【13 認知力 思考力 判断力】の1項目であり、64%であった。本園の方針として、悩んだ時は一人で判断したり、一人でひたすら考えたりせず、職員間で良い

も悪いも共有しながら高め合う雰囲気がある。そのため、個人としてのこの項目を評価することは困難な点もあったのかもしれないと推測される。今後、そのことも考慮に入れて、評価できるよう配慮したい。

全体的に去年より評価が上がっている。引き続き、試行錯誤しながら、学びを追求する姿勢で、やりがいのある、働きやすい職場づくりを目指していきたい。

※以上、評価結果及び数値は、別紙にレーダーチャートにして掲示してある。

※活用した自己評価冊子も結果と共に展示する。職員は一人一冊ずつ持ち、

都度活用し

て今後も評価を行う。

レーダーチャートの作成

- ①各項目について自己評価し、「〇」と答えた数を、それぞれの軸の上の目盛に印をつけます。
- ②自己評価の1から17の項目に合わせて、軸を記載しています。
- ③各軸(17)の頂点を結んでできたグラフの姿がチェックした人の人間性です。
チェックした頂点の高い軸の項目は、自分として良く獲得している資質・能力と考えられます。
- ④低い軸の項目は、自分の課題として捉えることができます。
ただし、この図形は、それぞれの自分に対する思い、考えに基づいて作成されたものであり、他者と簡単に比べるものではありません。
- ⑤自己評価は、自分の自己覚知のために行うもので、成長の変化を知るために、期間を決めて、度々行うと新たな気づきを得られます。
- ⑥この自己評価は、直接的に教育・保育実践の評価につながるものではありませんが、この評価のプロセスが子どもの成長発達のための教育・保育(第2部・第3部・第4部の自己評価)に大きく反映するものと思います。

※ 高水準 80%以上
90%以上

